

創美年鑑

年譜と資料

創美年鑑

年譜と資料

創造美育協会編

博文社

博文社 0002-80870-7361 定価1,300円



綱 領

私たちは子どもの創造力を尊び、美術を通して、それを健全に育てることを目的とする。

私たちは古い教育を打破り、正しい考え方と新しい方法とを探索し、進歩した美術教育を確立する。

私たちはあらゆる権威から自由であり、日本と世界の同じ考えのものと励まし協力しあう。

発 起 人

池 田 栄	瑛 九	岡 宏 子
嘉 門 安 雄	川 村 浩 章	北 川 民 次
木 下 繁	木 水 育 男	桑 原 実
久 保 貞 次 郎	佐 波 甫	周 郷 博
角 尾 稔	高 橋 俊 麿	滝 口 修 造
田 近 憲 三	藤 沢 典 明	宮 脇 公 実
宗 像 誠 也	室 靖	湯 川 尚 文

創 美 の 歴 史

年 譜

1936(昭11)～1977(昭52)

1936年(昭11)

秋 北川民次帰国 メキシコ・タスコの野外美術学校を閉鎖、22年ぶりの帰国

1938年(昭13)

2月19日 北川民次講演会 会場 横浜教育会館講堂。演題<私の美術教育>。同時に藤田嗣治が<メキシコと北川君>と題し講演。メキシコの児童作品展も開催。

4月 真岡第1回児童画公開審査会 会場 栃木県真岡町真岡小学校。真岡小学校講堂落成記念。審査員 三上英生、吉田雖一、羽仁五郎、羽仁説子、木下繁、瑛九、久保貞次郎、小野里利信、小此木真三郎たち。

6月 欧米旅行に出かける前の久保貞次郎が北川民次と初めて会いアメリカの美術教師への紹介状をもらう。

8月～1か年 久保貞次郎、日本の児童画をもって欧米を旅行し、17か国の作品をもち帰った。

秋 真岡第2回児童画公開審査会 会場 栃木県真岡小学校講堂。新に北川民次が審査員に加わる。

1939年(昭14)

6月 真岡第3回児童画公開審査会 会場 栃木県真岡町。

秋 真岡第4回児童画公開審査会 会場 栃木県真岡町。

秋 久保貞次郎収集の世界児童画展 会場 栃木県足利市。

12月 久保貞次郎収集の世界児童画展 会場 千葉県銚子市。解

創造美育協会宣言

自由画運動が大正8年、山本鼎らによって興された。自由画の精神はそのころの図画教育界に新鮮な気風を吹き込んだ。それから30余年も過ぎた今日、私たちの国の美術教育はどんなに進歩をしたろうか。欧米では、この間に、新しい心理学の光に照らしつつ美術教育は絶えず前進し、大きな発展を遂げている。日本では最近全国あるいは地方児童画展など、はなやかな脚光をあび、うわべでは躍進を遂げたとさえ見える。

しかし、実際は、欧米の進んだ国では常識となっている児童の生れつきの創造力を励まし育てるという原則でさえも、確立どころかまだ一般に知られていないありさまではないか。児童の創造力を伸ばすことは児童の個性を鍛える。児童の個性の伸長こそ新しい教育の目標だ。

私たちは、今から古いやりかたに根本的な反省を加え、新しい美術教育を築きあげようと決心した。全国の考えを同じくする諸君、いっしょに手を取って困難と戦い、より自由な美術教育の大道を切り開こうではないか。

会費は1年200円(現在2千円)と発起人の間で決めた。私たちは協力して1年数回、美術教育の特色のあるパンフレットを作り、会員に配る。また形式ばらない、実際役立つ、興味あるセミナーの開催など計画している。ところで、もしこの会に共鳴する諸君の熱心な参加がなければこの会もまた有名無実となって消え去らざるを得ないだろう。その時、日本の明日を背負う児童たちの、今輝いているひとみも失望のために光を失うであろう。

1952年5月